

平成27年9月28日

関連団体 各位

大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）

茨城支部責任者 寺門 貴

一般社団法人 茨城県リハビリテーション専門職協会

会長 佐藤 弘行

公益社団法人 茨城県理学療法士会

会長 斉藤 秀之

公益社団法人 茨城県作業療法士会

会長 大場 耕一

一般社団法人 茨城県言語聴覚士会

会長 草野 義尊

関東・東北豪雨災害に関して（御礼とご報告）

災害発生直後より多くの皆様方より、お見舞いのご連絡等いただき、県士会を代表して深く感謝いたします。また、災害本部設置・運営につき、遅ればせながら今回の経緯と各位への御礼とさせていただきますこと、ご了承ください。

台風18号の影響により、9月8日より降り続けた豪雨によって、9月10日 茨城県南部に位置する常総市を流れる鬼怒川の防波堤が決壊。市内中心部を中心に広範囲にわたり冠水。1万戸以上の家屋が被災。4000人以上の市民が避難することとなった。

災害発生後、2日目となる12日にはDMATおよびJMATの合同災害対策本部へ、JRAT茨城としてリハ専門職も参加。さらに初動と同時に茨城県からリハ指定病院に対して、所属セラピストへの派遣協力の公文書を発出いただく。

対策本部では医療チームにJRAT茨城も帯同。各避難所のニーズ調査を含めた医療活動を実施。特に避難所の環境調査やエコノミークラス症候群に対する対応を中心にラウンド。さらに、より多くの避難所の情報収集と医療対応目的にJRAT単独チームを複数編成し活動。

災害発生後1週間目（9月17日）、DMATおよびJRATを始めとした医療支援チームは、地域の医療機関等が業務再開したため解散。しかし、JRAT茨城は避難者からのリハニーズが減少しないため、従前から構築されている「県地域リハ支援システム（以下、地域リハ）へ引き継ぐ」ことを着地点として活動を継続。県長寿福祉課からの要請による活動として位置付けることとなった。

9月27日には、地域リハへの移行調整が開始され、JRAT茨城の本部は同日解散とした。

奇しくもJRATとして初めての災害活動であり、今後へ多くの課題は指摘されたが、災害地区が比較的限局されていたことや初動時より医療チームと帯同できたこと、そして何より茨城県の理解と要請により、非常にスムーズかつ多くの協力体制を構築できたことは大きな収穫であると感じております。

今後、今回のような災害が起こらぬことを祈りつつ、万一の際には今回の対応が少しでも役立つことを願っております。

以上